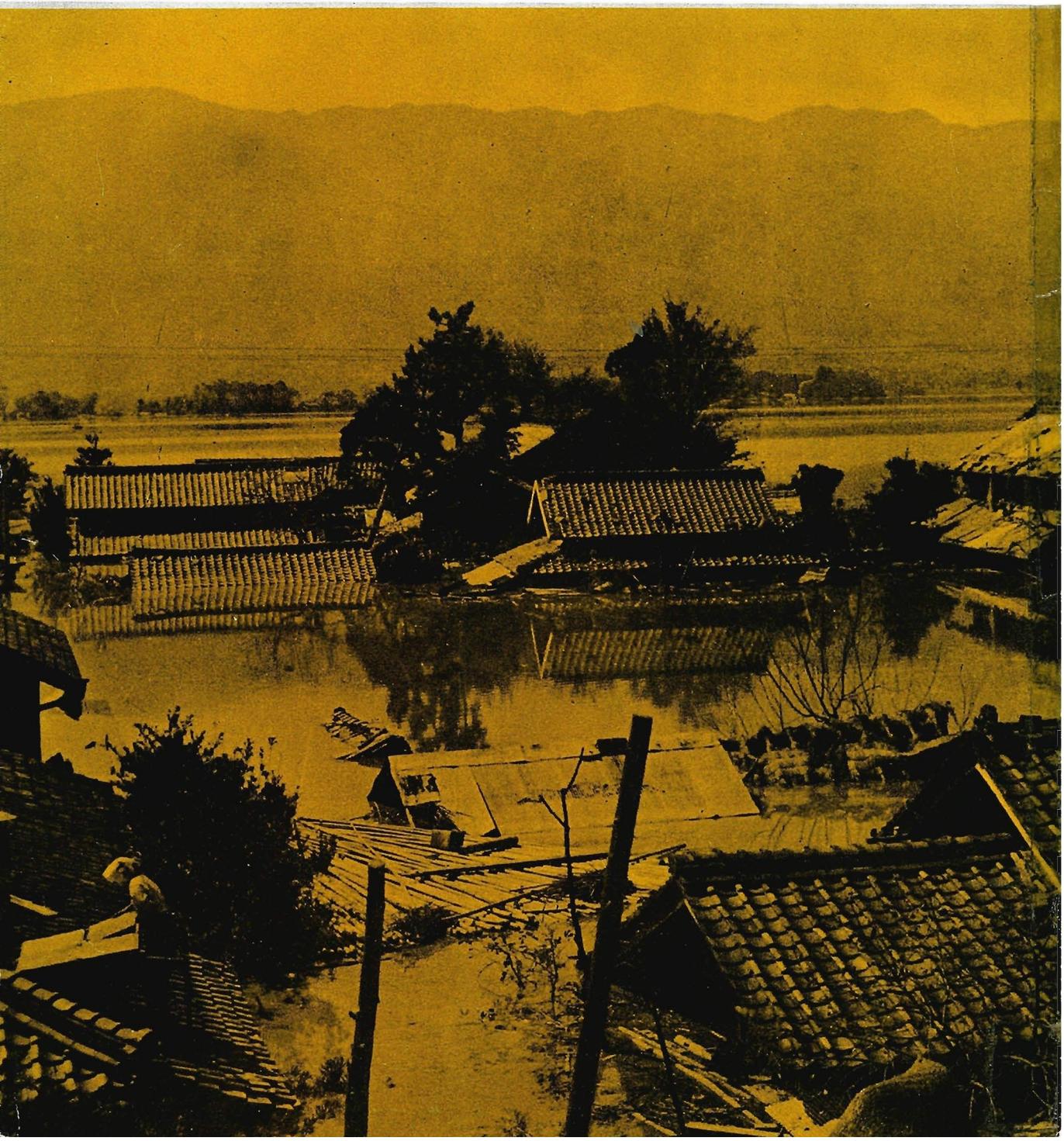
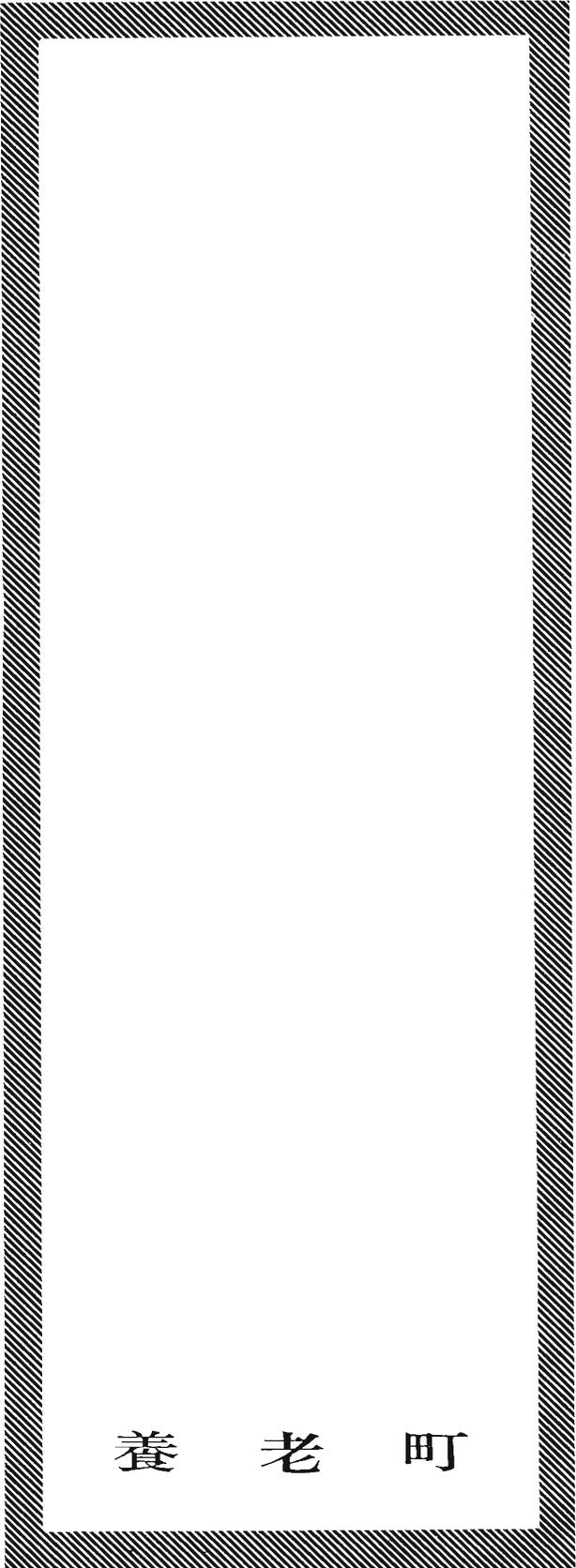


養老町の

大水害



養老町の
大水害



養 老 町

養老町薩摩義士顕彰会

「養老町の大水害」編さんに当つて

養老町長 山 田 良 造

古来より、災害は忘れた頃にやつて来ると申されていますが、養老町の被むつたこの大災害は例月災害の特異性をもったケースであります。

昭和34年8月の集中豪雨と、9月の伊勢湾台風の2回に亘る風水害は、本町に未曾有の被害をもたらしました。

この大災害による被災者の皆さん方に心からお見舞を申し上げます。

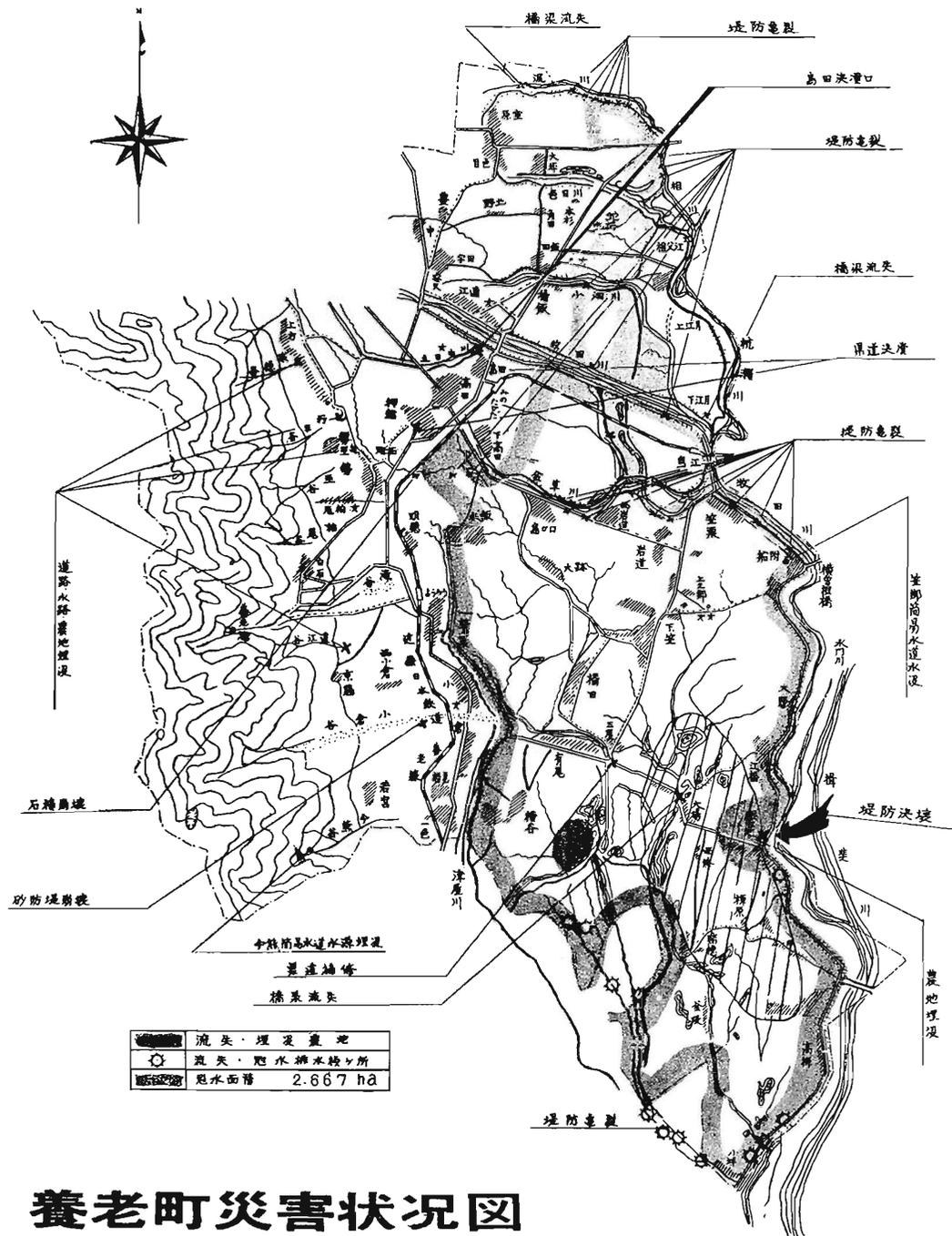
この水害は郷土史上空前の災害とはいえ、余りにもその惨禍は大きく、特に輪中水害の特種環境である長期湛水によって、本町穀倉地帯の大半を荒野と化せしめたことは、かえすがえすも遺憾の極みに堪えません。

私はこの二度に亘る大災害に当って、早速災害救助法の発動と、自衛隊の救援を要請して、被害全域の救助に当ると共に、災害の復旧については、町の全機能をあげ、更に国及び県の強力な援助を要請して、人力・機械力の総力を結集し、その復旧対策に着手したのであります。

この被害総額は、60億と推定する莫大なもので、これが復興には、町民各位の忍耐と協力により、この悲運を乗り越え、特に興農事業として認められた、土地改良事業等多芸輪中振興計画に基き、穀倉養老の名を輝せる姿に立ち直らせたのであります。

なお改めて罹災者に対し、各方面から心あたゝまる御援助を下さいましたことを、心から厚くお礼申し上げます。

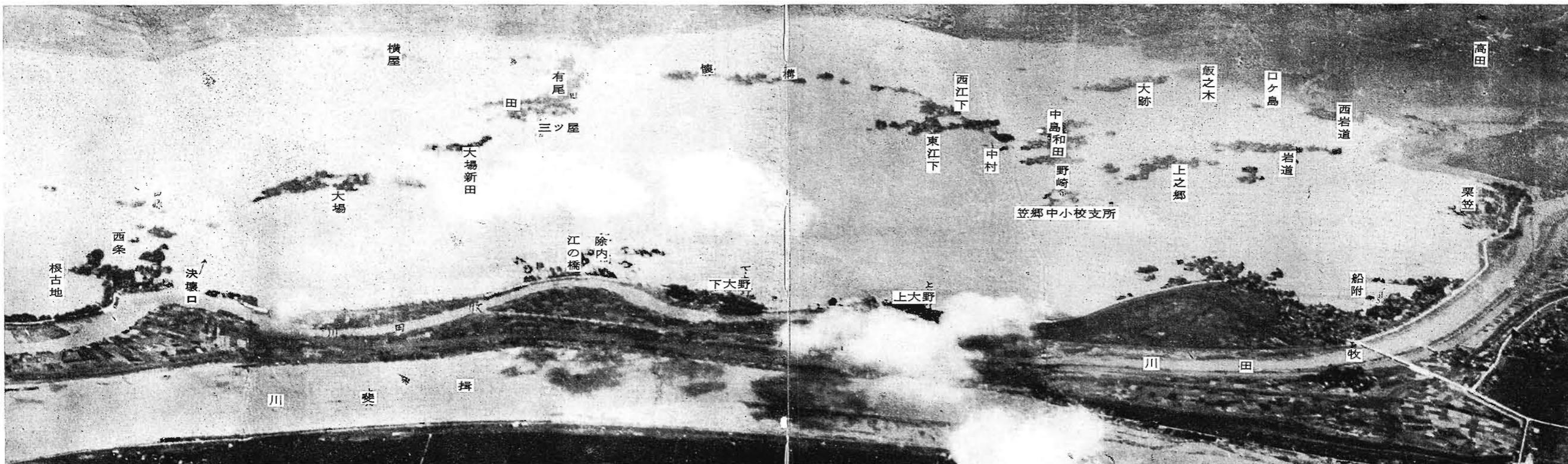
こゝに大水害の写真ならびに記録を編さん致しましたが、大災害の経験を永く記念する一助ともなりますれば、望外の喜びであります。



養老町災害状況図

昭和34年8月12・13日豪雨
並に伊勢湾台風による

有史以来の大災害をもたらした多芸輪中大風水害（空から見た多芸輪中）



養老町の大水害

一度ならず二度までも

有史以来世紀の大水害悲史

昭和三十四年八月十二、十三日の集中豪雨がもたらした多芸輪中水害の恐怖は、明治二十九年以来

こゝに身をもつて受けた水魔の洗礼である。

十二日午後から西濃地方を襲った豪雨が六〇〇ミリの記録を示し郡を貫流する牧田川を氾濫せしめ同日午後九時高田地内島田裏堤を決壊し翌十三日には随所各川の水系を一層危険の極に至らしめて同日午後七時五十分遂に一大音響と共に池辺根古地々内牧田川右岸堤を決壊したのである、養老町東南の穀倉地帯二百六百余ヘクタールは豊穰の秋をみることもなく一瞬にして水魔の湖底に葬られ、池辺・笠郷・上多度（三郷）、広幡及び高田一部の各部落は悉く濁流に浸され二、二〇〇世帯、一二、〇〇〇人の罹災者は漸く人命の難をのがれたのである。

同日決壊口から浸水した怒濤はさか巻く激流と化して一瞬にして数十の人家を一呑みにし、またくうちに根古地部落をけんせきしてその主流は水柱をたて、直進し南北に水勢をひろげつゝ揖斐川の逆水によってやゝ主流を北に変え笠郷地内に恐怖をたくましつゝ三尺余の水柱をたて、狂奔する濁流が不気味な音を伴って随所に水勢をほし、まゝにした暗の夜の洪水は今の世に再現した水地獄のように十四日夜半に至るまで水勢を増し広大な沃野を泥海化したのである。

この一大湖水と化した同地域の水量は約一億トンと推定され、十五日に至ってやゝ減水の兆候をみたが之は揖斐牧田両川の水位に影響するところが大きく満潮時の逆水は住民を不安と焦躁の中におとし入れた観があったが同日朝七号台風による強風が大きな波を誘って屋根まで没した家屋を根底からゆさぶった被害は一段と惨害を助長せしめたのである。特に全国稀れなる当町輪中水害の惨状は特殊ケースとして凡そ他に類がない海抜以下一メートルという池辺地区は、濃尾の最低湿地として自然排水不能の特殊環境から冠水期間の長かったことが遂に農作物全滅の致命傷を与えたのである。

昼夜兼行の仮締切と相俟って機械排水の稼働が漸く二五〇〇馬力の全機能を發揮し排水の全きを期す頃は湛水突に二十余日の記録と共に水稲の全滅は勿論のこと一抹の望みをもつた蓮根の収穫すら期待を裏切ったのである。一寸じのわら一粒の米もない被害地の状況は仮小屋に露を凌ぐ被害者の姿と共に聞くも哀れ見るも目を覆うものばかりであった。

総りの秋を目前に控えて、野に山に天地の恵みが満ちる季節をよそに水害地には青い草の突一つなく家を流され、家財道具をうばわれそして唯一の収入の道である耕地を埋没された罹災者の心中は察するに余りあるものがある。

九月の中旬もすぎたようやく、あちこちから建設の響きが聞えるようになって来た、罹災者は一丸となって我が家の修理に耕地の復旧に勇しく立ちあがったのであるが自然の神は我々に救いの手をさしのべてくれなかった。九月二十七日東海地方をおそった伊勢湾台風の為によりやく出来あがった仮堤も一瞬にして決壊され濁流は再び多芸輪中地内に怒濤となって流れ込んだのである。瞬間最大風速五〇米という大強風にあおられ先の水害でいたんだ家は一たまりもなく、全壊半壊は数十戸を数え濁流と強風にもまれた家屋はみるも無惨にその原形を残すのみとなった。

穀倉地帯の田園を埋没し生活の基盤を根底からくつがえした数十万リユーパーの土砂は附近の地形を一変させ流失の家跡、傾いた家、壁なき惨骸見渡す限りくち果てた田園の後は何か心を荒涼とさせるものがある。

本水害に当り一名の犠牲者もなかったことは、不幸中の幸であったが、災害救助法の発動、自衛隊の出動、罹災者給与も延二十数万人に及んだ。

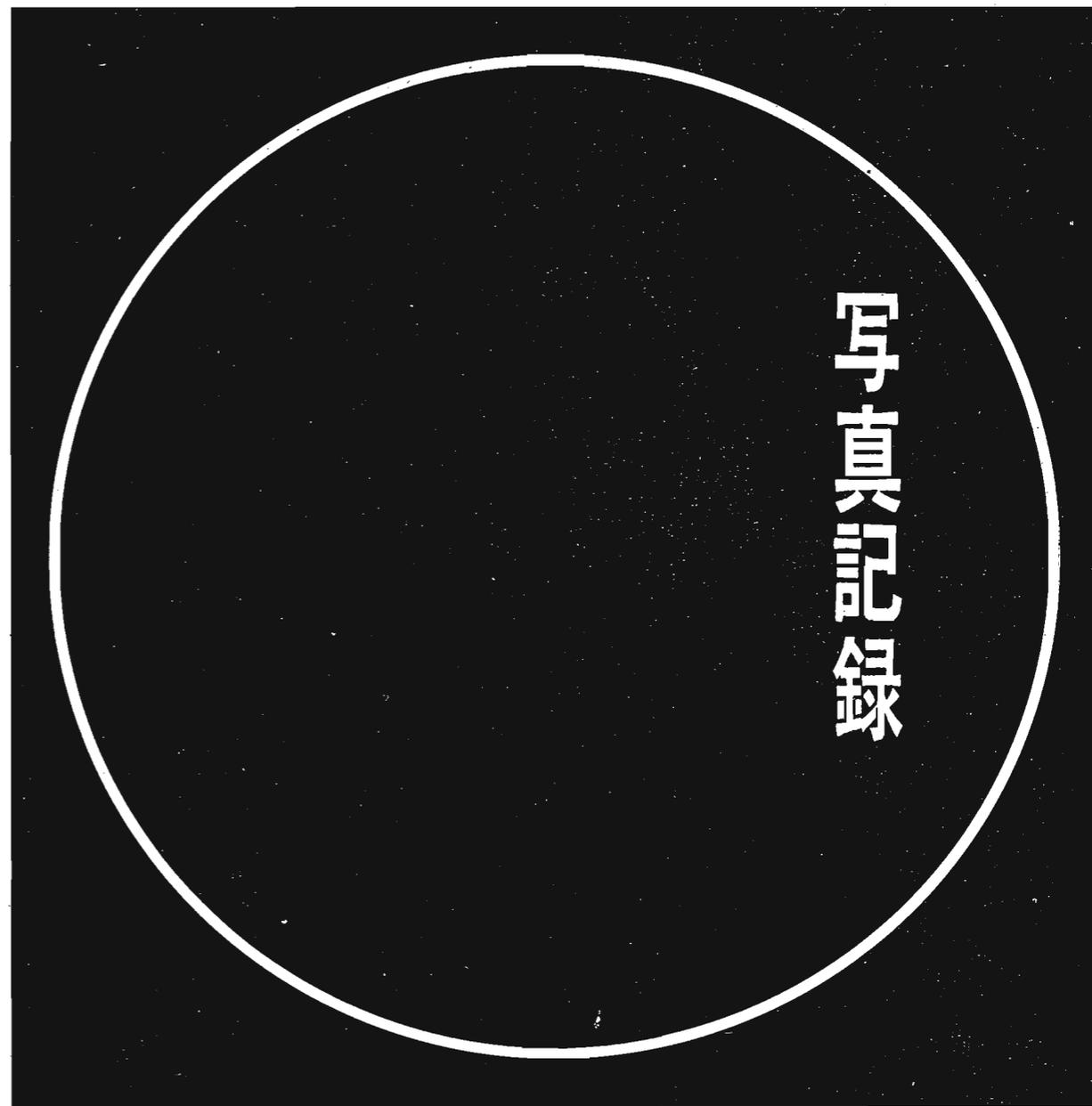
この大水害に対して我々はこの機会に思いを新たにし、遠い宝暦の昔薩摩義士、平田靱負以下の血涙や幾多の人柱によって郷土治水の遺業を偲び治水神社に祀る義士の霊に敬虔な祈りを捧げることを忘れてはならぬ。



集中豪雨 堤防上の溢水状況

牧田川刻々増水

根古地附近 牧田川は刻々増水 堤防上の民家は危機に瀕した



写真記録

泥海と化した多芸輪中



水没した穀倉地帯（船附）



牧田川堤決壊口（根古地）
巾 150m 深サ 10m

（決壊口）自衛隊救助ゴムボート出発



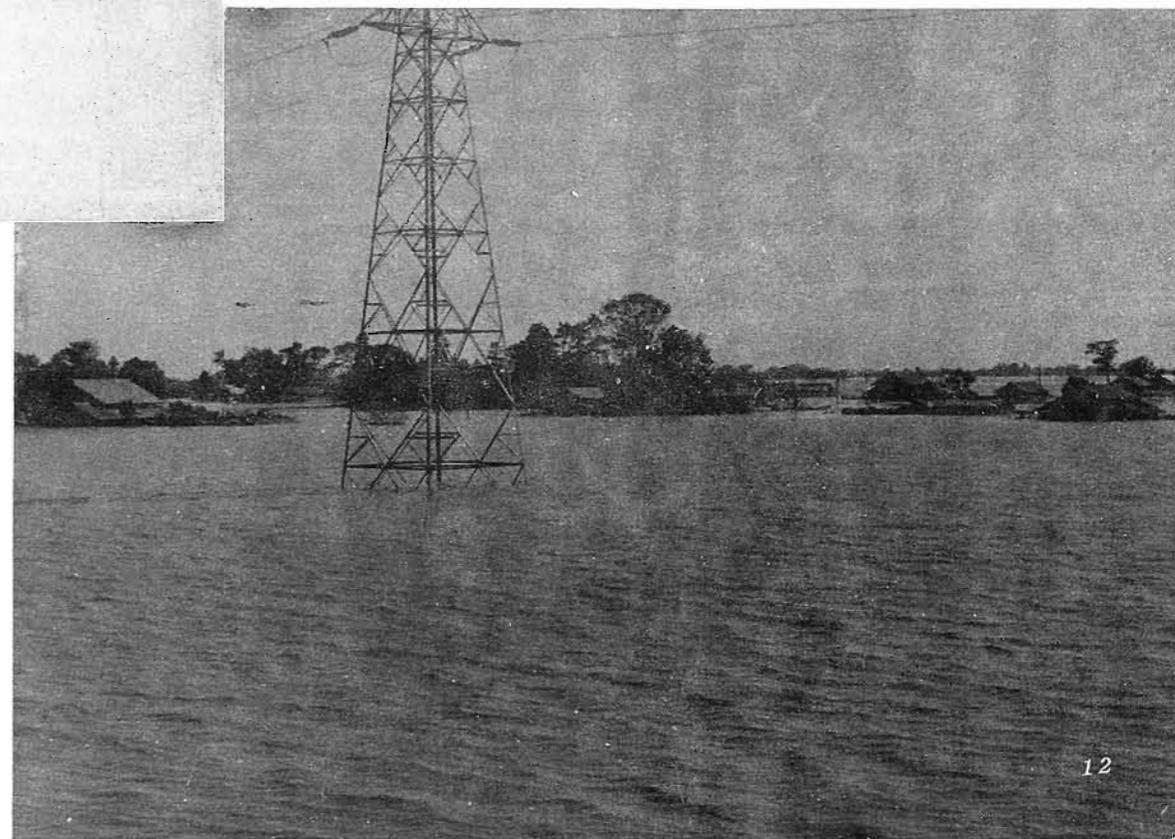
泥海のなかに没してゆく母校を目の前にみて 子供
たちはただ大声をあげて泣いた(養老町池辺小学校)





決壊口よりはるかに水没した 大場，下笠を望む

濁流に屋根点々（大巻）



家財道具搬出に急いだが
既に屋根まで増水



濁流にしずみゆく住家（江ノ橋）



た の み の 排 水 機 も 濁 流 と 流 木 の 中 で

(小 坪 笠 郷 排 水 機 附 近)



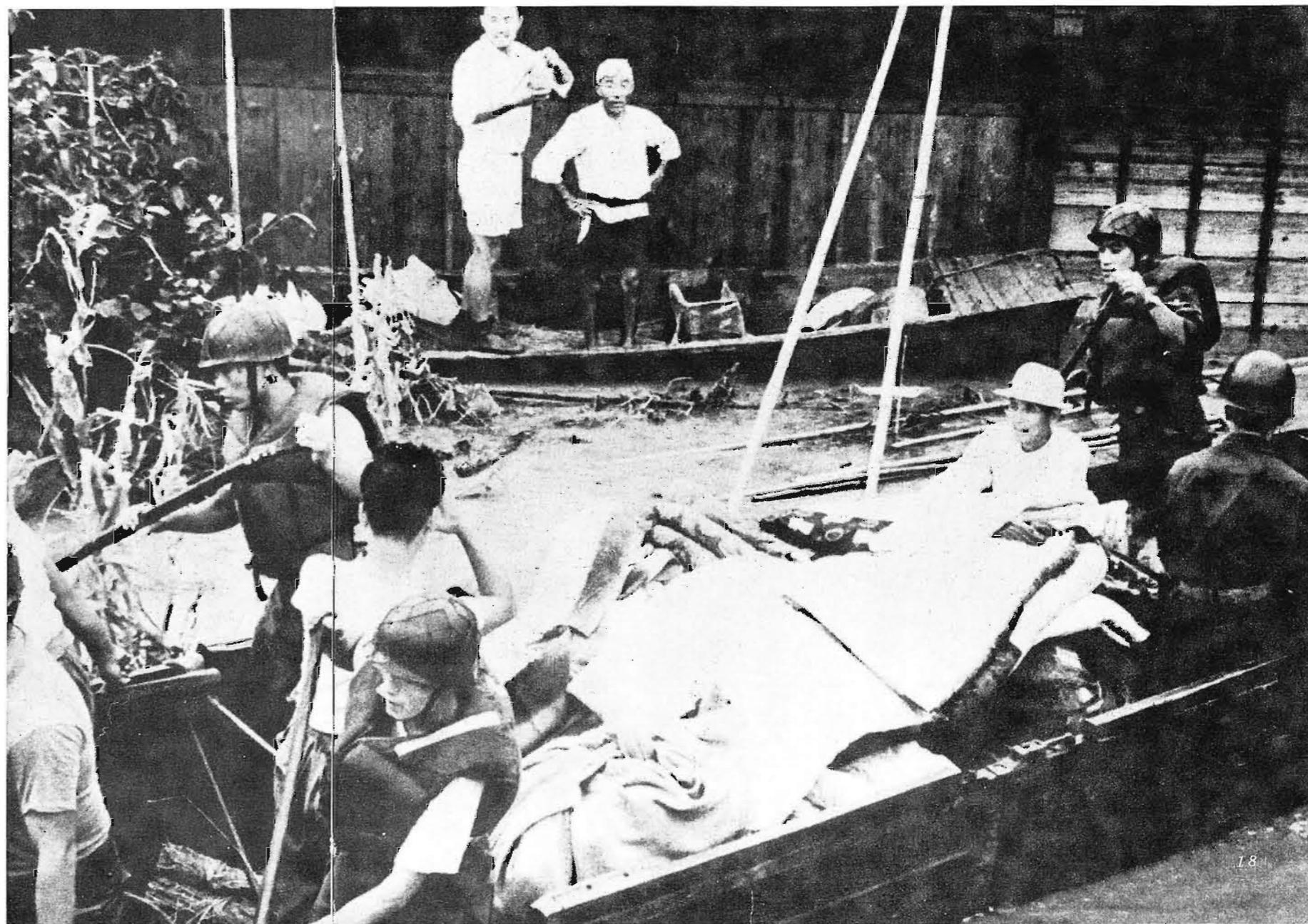
た だ ぼ う ぜ ん と 濁 流 を み つ め る 人 た ち

避難救出



警察隊の応急救助
(五三排水機附近)

逃げる間もなく濁流の中に残された多くの人々は、自衛隊員必死の救助活動により九死に一生をえた。





すべてをあきらめても 家族同様の牛だけはどうしても見捨てられなかつた

決壊口より 救助舟が つぎつぎに出発した





避難所は40ヶ所設けられ 延べ21万1千人を收容した

不自由な仮小屋生活だが 子供たちはもう明るさをとり戻した



続々と避難する罹災者 (今尾橋附近)

いつまでも冠水している 我が家をながめながら 堤防上の仮住居 (小坪)



災害救助



婦人会の協力により 100万個のおにぎりをつぎつぎと罹災者におくつた

(高田地区婦人会 給食班)



自衛隊給水班の活躍



救援布団の到着（11月16日 5,600枚）



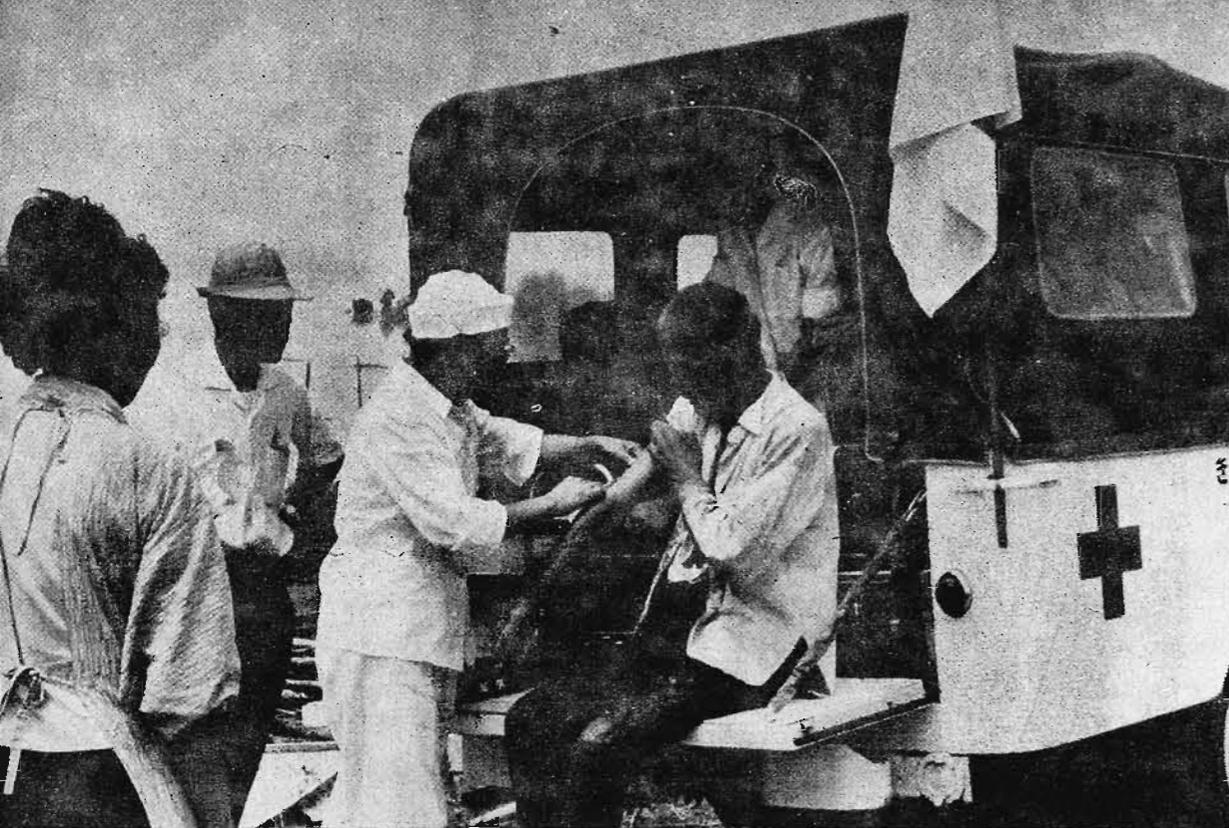
続々と送られてくる 救援物資は本部で仕分け 現地に急送した



仮小屋の朝晩はもう冷たい 待ちに待った布とんの配給



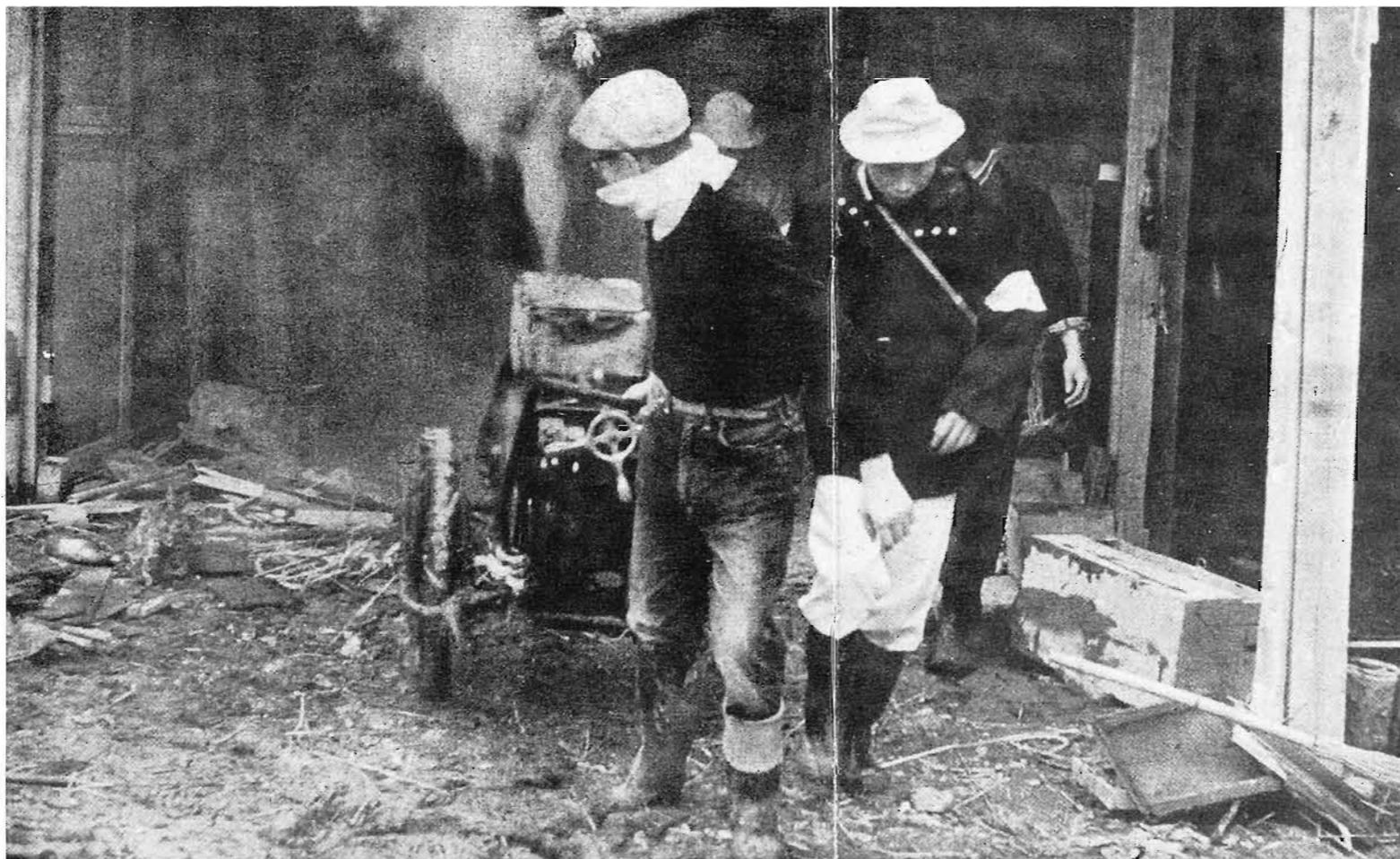
消防団も給水に活躍



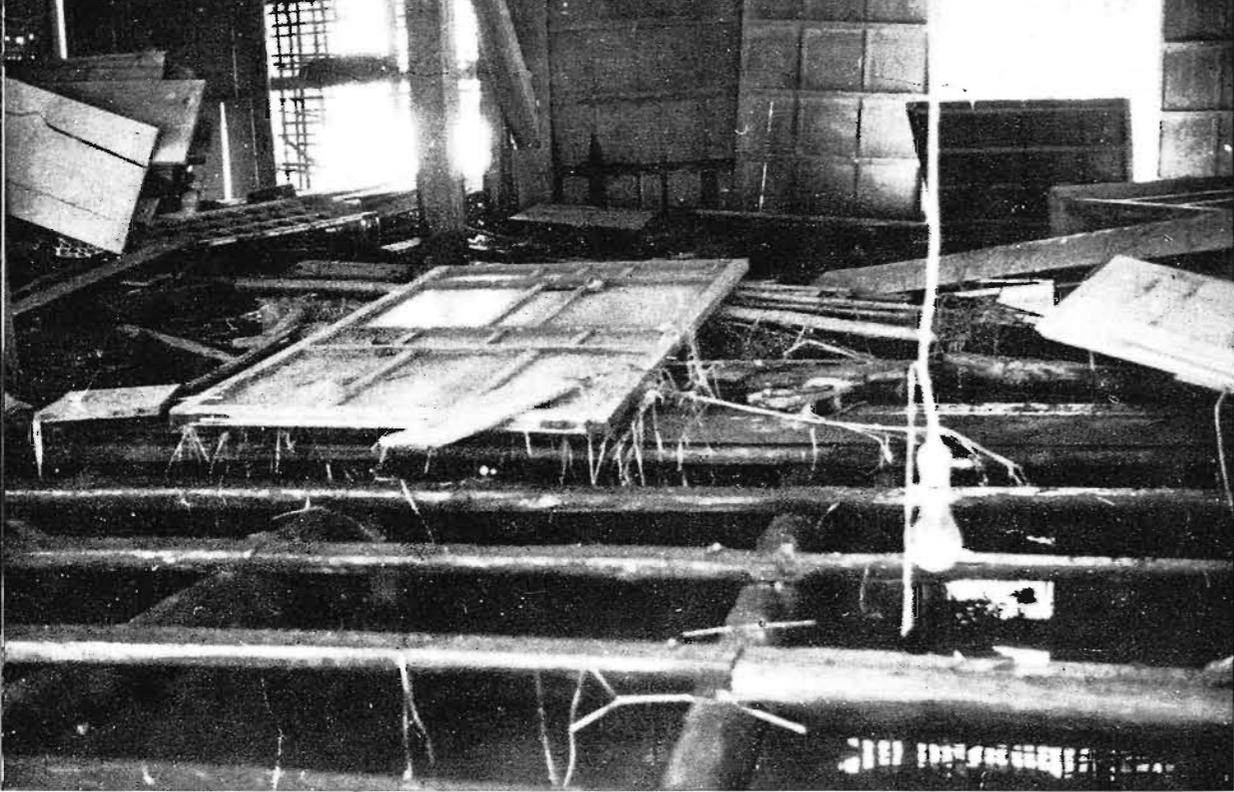
日赤岐阜支部の救護班も連日災害地を巡回し 被災
当時の痛みや体の故障を訴える人たちに感謝された



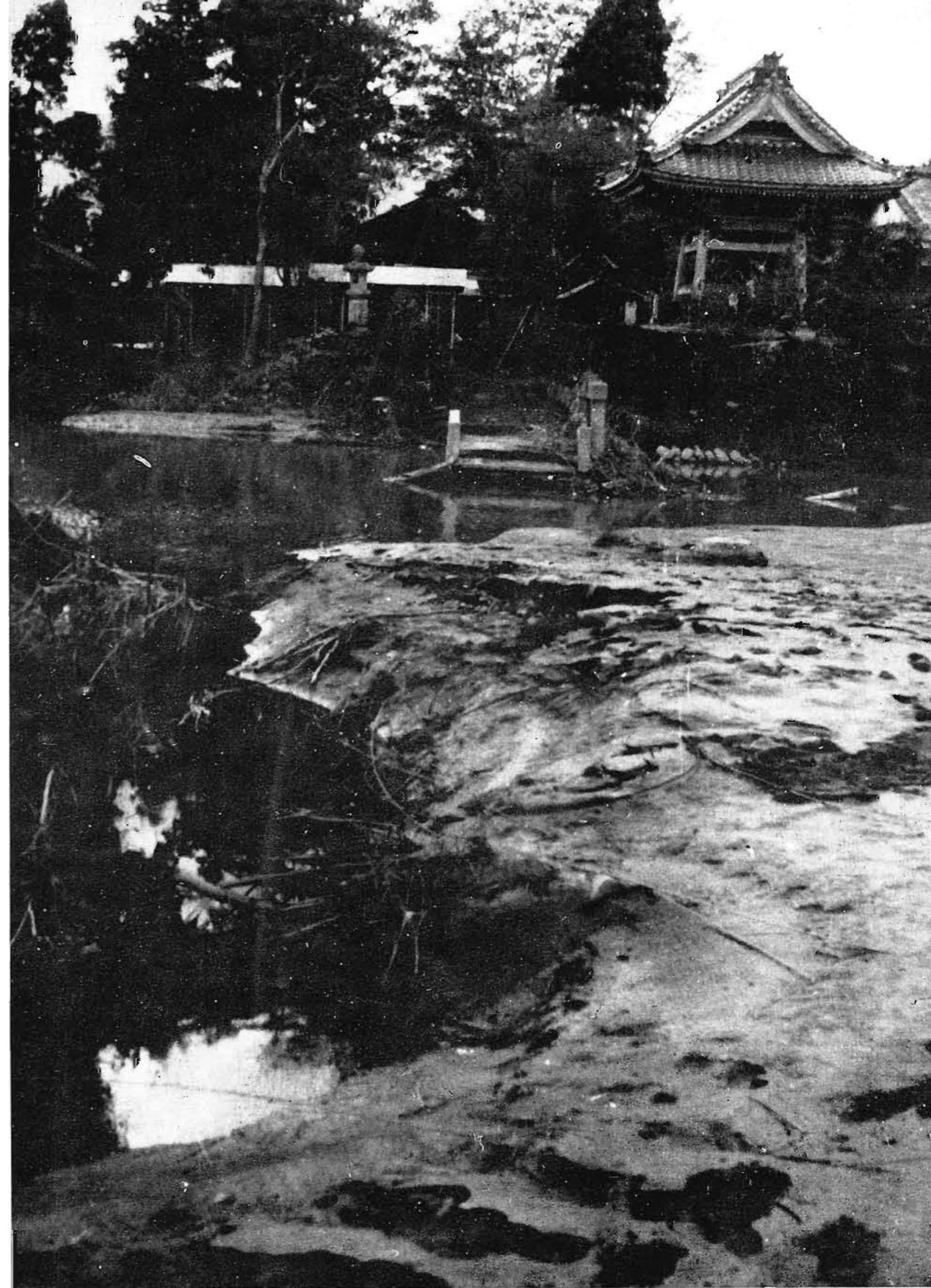
県立病院および保健所などから派遣された医療班



災害地にとつて最も恐ろしいのは伝
染病の発生だ 保健所職員の防疫活動



減水後の
廢居



水 禍 の 爪 跡 (根古地)



池 辺 支 所



手をつけるすべもなく
しよう然と……



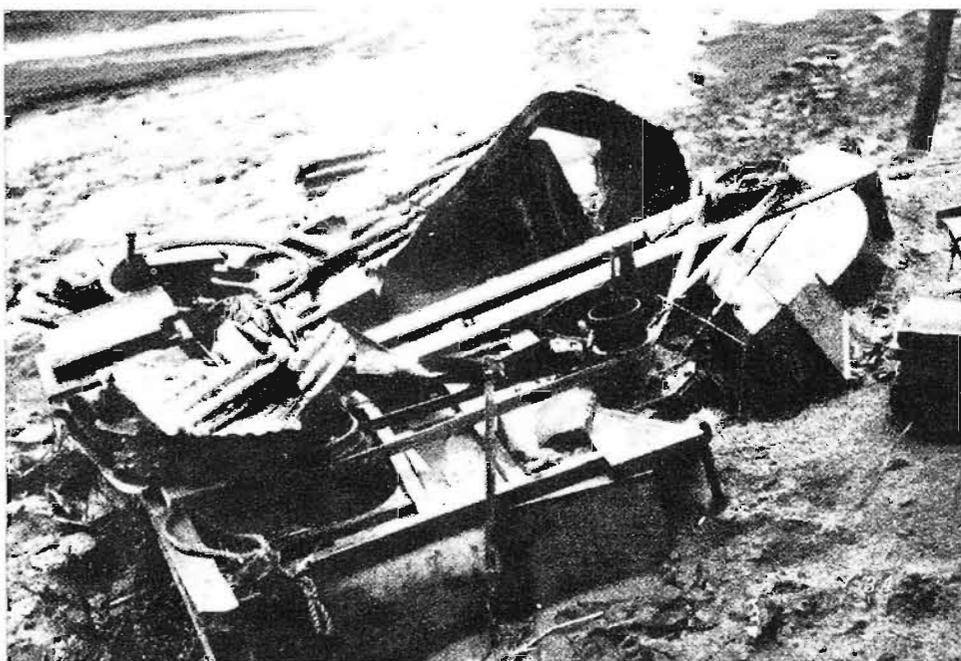
県道の惨状（大場）



根古地附近の減水状況



廃家同様の住宅



運び出すひまもなく
泥にまみれた農機具

収穫を目の前に

輪中内二九〇〇ヘクタールの水田の稲は 見るかげもなく腐りはてた





土砂で埋没した耕地

排水作業の終った根古地地区は 75万立方メートルのヘドロが
田畑を埋めつくし 見渡すかぎり底なし沼のようであつた



水のひいた決壊口付近には 泥に埋つた家と変り果てた田畑が現われ
当時の水勢のすさまじさがしのばれる (後方は 仮締切堤防)



流入土砂の搬出



(根古地)

復興の槌音
たかく

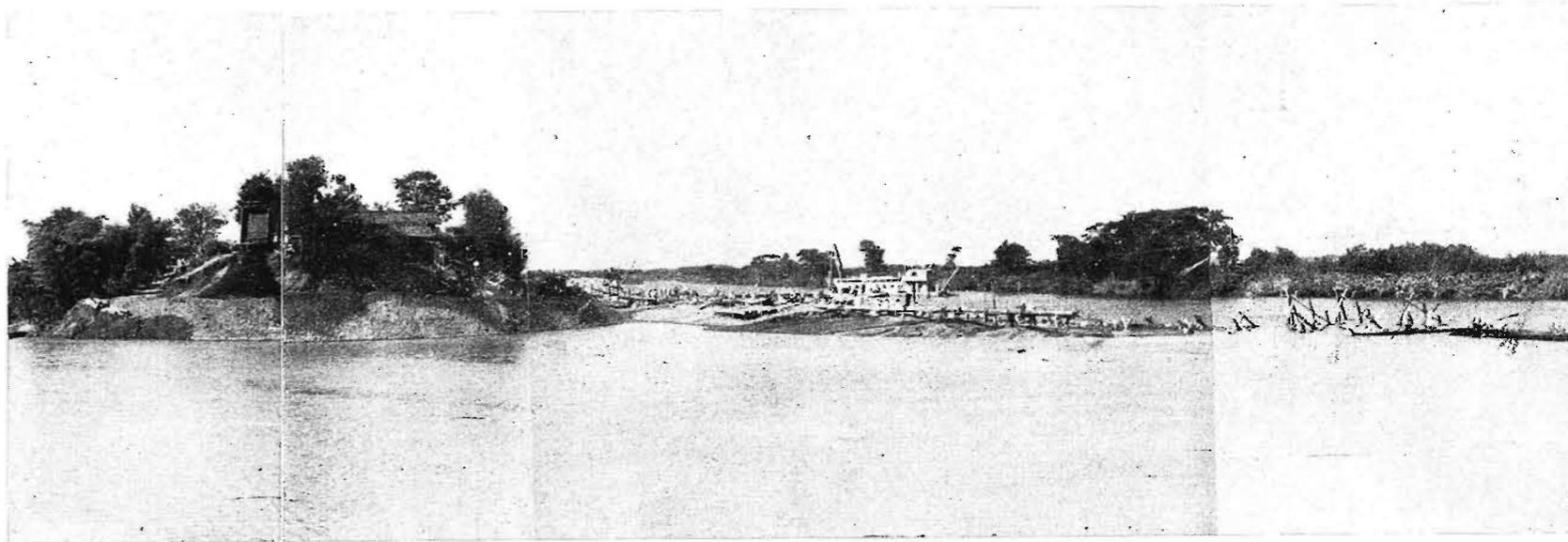


排土作業 倒壊家屋の整理にあたる
日吉・室原地区勤労奉仕隊
(根古地附近)





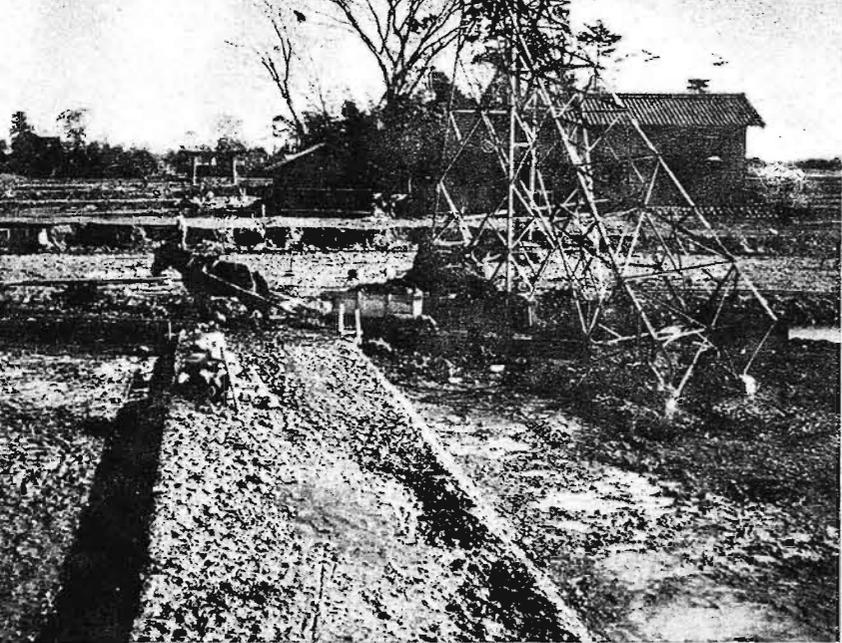
再度決壊した牧田川右岸堤防は 昼夜をわかたぬ突貫作業の結果 10月10日ようやく仮締切堤防工事に成功した



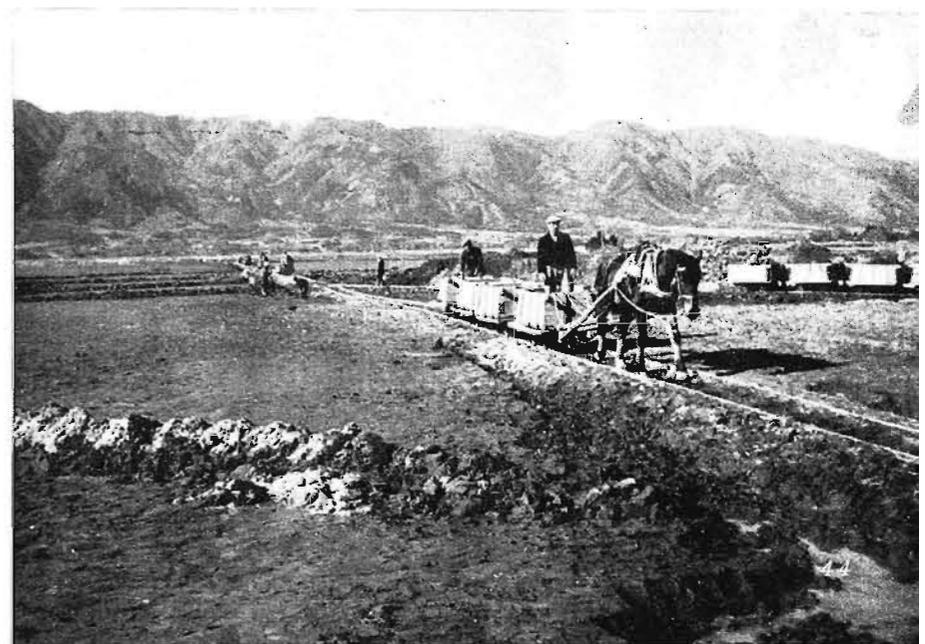
決壊口仮締切工事

活躍するサンドポンプ





災害復旧（排土）工事（根古地附近）



精忠義烈薩摩義士の偉業

この再度の大水害にあたり意を新たにしていして遠い昔薩摩義士のなしとげた偉業の一端をこゝに記してみよう。

遠い宝暦の昔

(約二百年前)

◇：濃尾平野には木曾川・長良川・揖斐川のような大きい川が三つも並行して伊勢湾に注いでいる。全国的にも珍しい現象で岐阜・愛知・三重の三県にわたる流域一帯はこの川の恩恵を受けて、いま穀倉地帯になっているが、その半面増水期の危険も大きい。

昔はこの三川の本支流が網の目のように縦横に貫流して毎年雪どけごろになると洪水が襲来して、家も耕地も道路も濁流にのまれた網の一目ごとにその村の人たちは周囲に輪形の堤防を作つてこの洪水を防いだ。こ



れが輪中の始まりである。しかし出水のたびに川底は上流から流れてくる土砂で高くなり輪中の周堤もこれに対抗してかさ上げ工事に励んだが、この堤防はときどき決壊して地元民は水害に苦しみ続け、宝暦三年十二月二十五日徳川九代將軍家重公はこの

治水工事を島津薩摩守重年に命ずると公表した。ここに治水義士の物語は始まる。

◇：なぜ水害地から千二百キロも遠い九州鹿児島県の薩摩藩に命じたか。それは幕府の「外様大名いじめ」で薩摩に多額の出費をさせ勢力を弱めて水害地を救うという政策なのだ。薩摩の国ではこの命令を拒絶して一戦を交えよう。七十七万石の薩摩と八百万石の徳川では勝負はない。もちろん死ぬ覚悟だと騒ぎ立てた。このとき

画像 肖像 負 鞞 田 平

総奉行平田鞞負は「いま平和の日を送っている領民を苦しめ死に急いで何になるか。武士の勇氣も大事だが、たとえ当藩が正論を天下に絶叫しても平和の時代になれている大名は応援しないだろう。犠牲を払って反逆のそしりを受け愚策だと笑われるだけだ。日本の国の農民が水害に苦しんでいるのを

見捨てて死ぬのはよくない。幕命に従って
というより日本の農民を救うと考えれば忍
耐できることだ。」と述べ、島津重年公は
遂に幕命を受諾することに決めた。

平田鞞負以下足輕など約千人は、宝暦四年
一月二十九日家族を郷里に残して出発
した。

◇：同年二月工事現場に着いて岐阜県養老
郡池辺村大巻、鬼頭兵内の邸に役館を置き
ここを本小屋といった。工場は三大川の
河口から上流数十キロ、左右の幅は四キロ
から二十キロもあり、第一期工事は宝暦三
年の大洪水で決壊した堤防の復旧だった。
一番の難工事は河床の低い揖斐川へ木曾・
長良両川が流れ込む洪水を防ぐ三川分流工
事を同県海津郡海津町油島千本松原付近で
行なうものと、長良川が出水のとき揖斐川
へ注ぐ海津・安八両郡境の大くれ川に石で
築く洗せき工事などで、作業は予想外に困
難だった。

そのうえ薩摩藩を苦しめようとする幕府
役人はことごとく文句をつけ、その年の四
月十四日藩士の永吉惣兵衛、音方貞淵の二

人は工事現場のささいなことから、幕吏に
いいがかりをつけられ憤慨し、割腹して宝
暦治水工事の初犠牲者となった。

平田鞞負

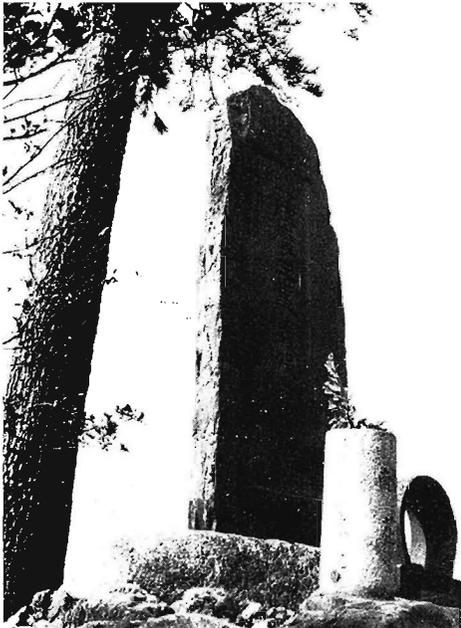
悲愴な最後

出水のたびにようやく築いた堤防は一瞬
にして流されたり、洪水後に発生しやすい
伝染病にかかって死ぬもの、武士の意地か
ら切腹するものなどが続出、また工事費は
かさむ一方で治水資材は円滑に入手できな
かった。

しかし薩摩義士の強い忍耐と努力
は一年余りにわたる苦心苦難を乗り
越えて、宝暦五年三月二十八日
徳川時代最高といわれたこの治水
工事をすっきり仕上げ、同年五月
二十二日幕府の完工検査を無事に
すませた。

こうして三大川流域の各輪中は
明るいい日を迎える基礎ができた。
部下をみんな故郷へ送り出した平

田鞞負は、同月二十五日池辺村大巻の役館
で「住みなれし里も今さら名こりに
てたちぞわずらう美濃の大巻」と歌
い、工事費の四十万両（米換算百六十万俵）
という多額を借金したうえ、割腹者五十四
人、病死者三十二人を出した責任をとり、
五十二歳で切腹した。そうして京都伏見の
大黒寺に葬られた。



災害状況

被害状況総括

1. 公共災害分

区分	被害金額	備考
建設省関係	480,000 ^冊	決壊口その他河川堤の損壊
県土木関係	78,000	道路、河川
町土木関係	122,050	道路、河川、橋梁
教育関係施設	38,541	中学校1、小学校2、公民館2
農林水産関係	922,300	耕地、用排水機及用排水路、その他
小計	1,640,891	

2. 一般災害分

区分	被害金額	備考
家屋	1,642,000 ^冊	1,642戸 1戸当100万円
家財	1,149,000	1,642戸 1戸当70万円
経済復興	640,000	商品、家畜外
環境衛生	164,000	井戸、便所等
公営企業	33,472	中配、近鉄分
農産物	1,079,700	田畑 2,200町歩
林産物	25,000	苗圃 その他
水産物	30,000	魚具及び魚類
その他	17,670	
小計	4,780,842	
合計	6,421,733	

公 共 災 害

施 設 名		第 1 次 災 害		第 2 次 災 害		合 計	
		箇 所 数	金 額	箇 所 数	金 額	箇 所 数	金 額
土 木 関 係	河 川	1	5,000 ^円	1	1,000 ^円	2	6,000 ^円
	砂 防 設 備	5	61,900	6	25,000	11	86,900
	道 路	53	16,100	45	8,000	98	24,000
	橋 梁	5	3,050	5	2,000	10	5,050
	計	64	86,050	57	36,000	121	122,050
農 林 関 係	農 地	113	81,500	95	370,000	208	451,500
	農 業 用 施 設	405	308,000	216	112,500	621	420,500
	林 道	10	2,000	8	1,800	18	3,800
	治 山 施 設	7	36,000	4	10,500	11	46,500
	計	535	427,500	323	494,800	858	922,300
合 計		599	513,550	380	530,800	979	1,044,350
教 育 関 係	小 学 校	1,331 ^坪 ₂	18,855	1,929 ^坪 ₁₀	5,600	1,929 ^坪 ₁₀	24,455
	中 学 校	593 ^坪 ₁	8,800	648 ^坪 ₂	2,780	648 ^坪 ₂	11,580
	公 民 館	247 ^坪 ₂	1,100	377 ^坪 ₅	1,406	377 ^坪 ₅	2,506
	計	2,170 ^坪 ₅	28,755	2,954 ^坪 ₁₇	9,786	2,954 ^坪 ₁₇	38,541
そ の 他	役 場	2	875	2	550	2	1,425
	保 育 園	7	5,600	7	1,750	7	7,350
	集 会 所, 俱 楽 部	14	4,210	14	1,690	14	5,900
	計	23	10,685	23	3,990	23	14,675
公 営 企 業	水 道 事 業	2	732	2	350	2	1,082
	軌 道 鉄 道 事 業	1	500	1	450	1	950
	電 気 事 業	1	18,590	1	12,750	1	31,340
	収 益 事 業	—	—	1	100	1	100
	計	4	19,822	5	13,650	5	33,472

一 般 災 害

区 分		第 1 次 災 害	第 2 次 災 害	合 計	
罹 災 者 総 数		1 1, 9 6 2 人	9, 8 0 5 人		
人 的 被 害	死 者		1 人	1 人	
	負 傷 者	3 人	2 3 人	2 6 人	
	計	3 人	2 4 人	2 7 人	
住 家 の 被 害	全 壊	戸 数	3 3 戸	3 3 戸	6 6 戸
		人 口	1 7 8 人	1 4 7 人	3 2 5 人
	流 失	戸 数	1 7 戸	8 戸	2 5 戸
		人 口	7 6 人	4 4 人	1 2 0 人
	半 壊	戸 数	1, 5 3 8 戸	1, 4 4 5 戸	
		人 口	8, 8 7 6 人	8, 2 0 9 人	
	浸 水	床 上	戸 数 人 口	2 3 戸 9 2 人	1 0 戸 3 8 人
床 下		戸 数 人 口	5 5 6 戸 2, 7 4 0 人	2 7 5 戸 1, 3 4 3 人	
合 計	戸 数 人 口	2, 1 6 7 戸 1 1, 9 6 2 人	1, 7 7 1 戸 9, 7 8 1 人		
非 住 家 の 被 害		2, 7 3 6 戸	2 3 7 戸		
農 業 被 害	田	流 失 , 埋 没	7 0 町	4 2 町	1 1 2 町
		冠 水	2, 0 2 4 町	1, 7 1 5 町	
	畑	流 失 , 埋 没	5 町	2 町	7 町
		冠 水	1 6 3 町	1 2 9 町	
合 計		2, 2 6 2 町	1, 8 8 8 町		
農 作 物 被 害 金 額		8 9 4, 7 0 0 円	1 8 5, 0 0 0 円	1, 0 7 9, 7 0 0 円	
林 業 被 害	苗 畑	2 0 0 坪	4 0 0 坪	6 0 0 坪	
	林 産 物 被 害 金 額	1 5, 0 0 0 円	1 0, 0 0 0 円	2 5, 0 0 0 円	
水 産 被 害	漁 具	2 0 0 円	4 0 0 円	6 0 0 円	
	水 産 物 被 害	2 5, 0 0 0 円	5, 0 0 0 円	3 0, 0 0 0 円	
そ の 他	生 産 品 の 被 害	2, 4 9 5 円	5 0 0 円	2, 9 9 5 円	

伊勢湾台風記録

(昭和34年9月27日)

一、災害救助

1. 災害救助法の発動

九月二十七日午前
三時二十五分養老町
に災害救助法が発動
された。

2 災害救助の実施

(1) 避難所の設置および収容

災害が発生する
や急拠学校・公民
館・寺院等既設建
物利用の外、牧田
川堤防上に野外避
難所を設け被災者
の収容保護にあた
ったが、多芸輪中
地域においては長
い間水がついてい
たため九月二十七
日より十月三十一
日まで三十五日の

(2) 炊出しの給与

長い間にわたり、その避難所開設数は二十四ヶ所、これに収容した延人員は一二万九千六一名に達した。

避難所に収容された被災者および住家の被害を受けて自宅で炊事のできない被災者等に対して、災害発生と同時に消防団・婦人会等の奉仕隊を動員していっせいに炊出しを実施し救助にあたった。

(3) 飲料水の供給

その期間は九月二十六日より十月三十一日までの三十五日間で給食延人員は一二万九千六一名に達した。

飲料水の供給
長期湛水のため自衛隊豊川・茨城部隊の給水セット三台、タンク車一台、ダンプカー二台の派遣をうけ、九月二十七日より十月三十日まで三十四日間にわたって飲料水供給の応援をえた外、大垣市の散水車、借上の三輪車、ドラム缶等、機械器具により十一月十日まで四十四日間給水を実施した。

(4) 被服・寝具その他必需品の給与

今回の災害によって住家に被害を受け、日常生活に欠くことのできない被服・寝具その他の衣料品および生活必需品を失い、又は壊された者に世帯単位で、被害程度により住家の全壊又は流失世帯と住家の半壊、床上浸水とに区分し、寝具・被服・生活必需品等を配分支給された。

3. 医療

災害発生の翌九月二十七日早朝被害激しん地の本町に日赤医療班、同日午後県立岐阜病院医療班の派遣をうけ、十月三十一日まで引続き堤防決壊地の南北に一コ班ずつが配属され、医療救護に萬全を期せられた。

4. 学用品ならびに教科書の給与

災害のため住家に被害を受け、就学上欠くことのできない学用品を失った小学校児童および中学校生徒に対して教科書およびその他の学用品を支給した。

又、アメリカの映画スター夫妻から笠

郷・池辺小の両被災校にピアノが寄託された。

5. 応急仮設住宅の設置

(1) 仮設住宅の設置

住家が全壊または流失した被災者は四一戸あったがこれらの被災世帯で自らの資力では住宅を確保することができない者に対して建坪五坪、建築費十万円以内の仮設住宅を二三戸設置され、一時的（貸与期間二年）居住の安定がはかられた。

(2) 国有林木材の払下げ

仮設住宅建築用資材として営林局より国有林木材を仮設住宅一戸当り一三石の割で、価格は災害発生前日の時価の五割として有償払下げを受けることにし百九五石六斗の原木を一八万九千五百三十七円で払下げを受けた。

(3) 住宅着工および竣工

応急仮設住宅の着工期間を十月二十五日とし十一月二十五日全戸が完成した。

6. 住宅の応急修理

(1) 対象戸数

住家が半壊の被害を受け、その応急修理をする資力のない者に対しては必要な修理の救助を行なって居住の安定がはかられた。

その救助対象となった戸数は、半壊千四百八六戸のうち二百六四戸であった。

(2) 応急修理実施状況

応急修理は一戸当り費用二万円以内で十一月十五日までに夫々完成した。その費用はおよそ一千三百九十八万四千円であった。

7. 応急救助のための輸送

救助・救援物資の輸送は自動車輸送により迅速な配分に努め、ほとんど滞貨することなく全物資を無事完了したこの間使用した自動車はバス四台、大型トラック三台、小型トラック四七台、オート三輪七六台、計百三〇台であった。

8. 法定外の各種救助

(1) 見舞金の贈呈

学 校 清 掃 郡教職員、町消防団、

水害地消毒作業 青年団

救助隊炊出し 婦人会

し上げる次第であります。

にのほり尊い御協力に心から御礼申

有志による奉仕作業は莫大なる人員

青年団・教職員・学校生徒或は一般

災害の軽微であった地区の婦人会

(2) 勤労奉仕の状況

町

種類	受給件数	一件当り額	支 出 額
全壊	三世帯	一〇,〇〇〇円	三三〇,〇〇〇円
流失	八世帯	三〇,〇〇〇円	二四〇,〇〇〇円
半壊	二四七一世帯	三,〇〇〇円	四四一三,〇〇〇円
其他	七七三世帯	一五,〇〇〇円	一,一五九,五〇〇円
計	二二八五世帯		六,一四二,五〇〇円

県

種類	受給件数	一件当り額	支 出 額
全壊	三世帯	二〇,〇〇〇円	六二〇,〇〇〇円
流失	八世帯	二〇,〇〇〇円	一六〇,〇〇〇円
半壊	二,四四五世帯	一〇,〇〇〇円	一,四四五〇,〇〇〇円
計			一,五二五,〇〇〇円

学校 清掃 一般有志、岐大学生、

天理教岐阜地区員、

高山国鉄労組員

水害地慰問 一燈園、自衛隊音楽隊

(3) 被災者無賃乗車証明書およびお見舞バス無賃乗車券の交付

愛知・岐阜・三重三県下鉄軌道間

係事業者、バス関係全事業者の好意により、避難所に収容されている家族と残留者との連絡をはかるため無賃乗車証明書（鉄軌道用）とお見舞バス無賃乗車券（バス用）が贈られたのでつぎのとおり配布した。

国鉄（白） 二、一〇〇枚
名鉄（青） 八六三枚
近鉄（黄） 一、七二五枚
バス 二、一六三枚
計 六、八五一枚
（有効期間 十月中）

(4) 救援金および救援物資

本町の水害に対し全国各方面からさしのべられた愛の手は誠に心あたたまるものがある。

救援金は集中豪雨水害見舞金六百一

二万八千七百七〇円、伊勢湾台風見

舞金千五万五千六百七円の莫大を額

と併せ約六五万点の救援物資等二度

の災害によせられた厚意に唯々感謝

せずにはいられない。

救援物資については、国内の外ア

メリカ政府からの小麦粉・救援米、

カナダ政府からの肉缶詰、ベトナム

政府からの米、国際キリスト教奉

仕団の布団等、遠く海外からも大量

の物資が贈られた。

町は各支所を通じて次々と罹災家庭

へ配分した。

(5) 被災児童対策

被災世帯の児童四百五〇人に対し、

八月から翌年六月の期間の保育料の

減免がなされた。

二、農 林 対 策

1. 水没地および埋没、流失耕地の復旧

多芸輪中の水没地については、十月

十日牧田川の仮締切り工事完了とともに

にただちに排水にかかり十月十五日排

水を完了した。

多芸輪中地域内に流入した土砂約七五

万立方米の排出については、町営若し

くは県委託事業として関係地区内の区

画整理事業、池沼埋立による干拓事業

とを合せて実施し、三十五年植付時期

までに応急復旧をし昭和三十六年度に

おいて完工の予定である。

2 農地、農業用施設の復旧

公 共 災 害

農 地 九ヶ所 一三二、五九千円

農業用施設 二六ヶ所 三八九二〇千円

排 水 機 一ニヶ所 一三九九五千円

湛水排除事業 五、二三一八千円

小 災 害

農 地 六ヶ所 二九〇千円

農業用施設 五五ヶ所 三、一六二千円

3. 天災融資法の適用と資金枠の拡大

災害地に対する天災融資法の適用と

資金枠の拡大につとめ決定をみた資

金は、延千六百一七件金額にして、

一億六千八〇万一千円であった。

4. 自作農維持創設資金

一般農家分として集中豪雨災害で千九四件一億五百七十三万円、伊勢湾台風災害で二百九二件二千六百七十五万円を借り受けた。

5. 災害対策米穀の売渡

災害により一粒の米もなくなった農家千五百六二戸に対し昭和三十四年十二月より翌年十月までもち二百五四俵のうち一万五千六百四〇俵を売渡した。その代金は昭和三十五年十一月七百五八万八千七百七〇円、同年十二月に五千五百五千二百六十四円の二回に亘り納入した。

三、救農土木事業の実施

深刻な被害の現況から農作物の生産基盤の復旧と農業経営の安定をはかりあわせて被災農家に対し、就労による現金収入の方途を確立するため次のとおり救農土木事業を実施した。

1. 国庫補助事業

耕地整備事業（区画整理）

地区名	面積	事業量	補助金	備考
多芸輪中	一、四七九町	四七一、六〇〇町	二三五、八〇〇町	補助率 五〇%

埋立干拓事業

地区名	面積	事業量	補助金	備考
多芸輪中	六〇八反	二二四、七三九町	七七、三三八町	補助率 国庫五〇% 県費一二%

四、多芸輪中の復興計画

1. 農業の近代化と養鶏振興

多芸輪中の振興計画にもとづいて「わざわざいを転じて福となす」のことわざどおり当時の農家粗収入一戸当り平均三六万円を百万円に増加させようとするものである。

(1) 共同利用農機具として耕耘機百八

三台、事業費五千九百一八万円、これに対する国庫補助金二千八百一〇万九千円、このほかに脱穀機・糶摺機・製糶機・発動機等で事業費三九万二千円、これに対する国庫補助金一九万五千円。

(2) 農業の機械化にともない養鶏をとり入れるということ

り入れるということと鶏共同飼育管理所を四つの農協において三〇万羽を目標に一〇ヶ所設置する事業費三千七百二十五万七千四百七十九円、これに対する国庫補助金千八百一五万二千円、とりあえず三十五年には六万羽として三ヶ年間で目標達成をはかる。

(3) 稚蚕共同飼育所、堤外桑園の改善

をはかるとともに飼育の改善によって近代養蚕をおし進めるために二ヶ所事業費二百九〇万七千五百円、これに対する国庫補助金百三十八万九千

一円、以上の外共同作業所三棟、事業費百三万五千元、これに対する国庫補助金六万七千六百元、合計総事業費一億八千九百七十九円、国庫補助金四千八百五十二万一千円。

2. 簡易水道の布設

二回に亘る大災害により未曾有の被害をうけた多芸輪中において災害復旧新設事業の一つとして総合簡易水道（水源四ヶ所、給水戸数千三百戸、人口七千四百人、総事業費四千三百三十二万円、うち国庫補助金千六百三十四万七千円）を新設した。

3. 公営住宅の建築

農業振興計画の一環として農村向五戸連棟の鉄筋コンクリートづくり三階建の住宅三棟（根古地、大野、有尾）を建築した。

この建築住宅は、いままでの住宅改善が経済上慣習上の制約をうけて部分的にしかとりあげられなかったことに対し、災害を機会として農家生活と営農に近代化の方向を与えることをねらったも

のである。

構造は、あらゆる災害にも耐えるために鉄筋コンクリートづくりとし、一階は共同作業場、二階・三階は住宅になっている。これを一戸別にする和一階の作業場は三三、三平方米、二階住宅三三、三平方米、三階住宅一六、五平方米になっている。

総事業費千八百二十七万九千円、うち国庫補助金七百二〇万八千五百円である。

五、土木関係

国庫災害工事	道路、橋梁	五件	一、六四三、千五百
仮締切	一件	二、二〇〇、千五百	
町単災害工事	道路、橋梁	二五件	一、一七二、千五百
砂防	九件	二、六四〇、千三百	
水防	二件	二、七八九、千五百	
河川	二件	五、一三〇、千五百	

六、文教関係

1. 小中学校ならびに公民館の施設々備災害復旧
 小中学校および公民館の建物と備品は、総額三千六万二千二百八十三円をもって復旧することとなり殆んど完全に災害以前の姿に戻すことができた。

設備名	事業費総計	国庫補助金	町債	町一般財源
池辺小学校	七、七四六、一三四円	五、三八五、八〇〇円	一、七二三、〇〇〇円	六、三七三、三四円
笠郷小学校	七、五七〇、一七九	五、五八二、七〇〇	一、七八六、〇〇〇	二〇、一四七、九
笠郷中学校	七、一〇五、六一三	五、〇四四、九〇〇	一、六〇九、〇〇〇	四、五、七七一、三
その他九校	一、二五四、五五四	八、九〇、〇〇	二、八二、〇〇〇	八、二四、五四
補助対象外	一、一六八、三四八	—	八、五〇、〇〇〇	二、一八、三四八
小計	二、四八四、四八二	一、六九〇、三、五〇〇	六、二五〇、〇〇〇	一、六、九一、三、二二八

対する国庫補助金の優先的配分を得たことは第一項に示した通りである。

設備名	事業費総計	国庫補助金	町債	町一般財源
池辺公民館	八一八、〇五〇円	三八八、〇〇〇円	三八〇、〇〇〇円	四九四、五〇〇円
笠郷公民館	七九、一〇一五	四〇六、一〇〇	一	三八四、九一五
小畑公民館	六五〇、〇〇〇	一	四九〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
その他二館	二四〇、二〇〇	一	一	二四〇、二〇〇
小計	二、二八三、〇八五	七九四、七〇〇	八七〇、〇〇〇	六一八、三八五
池小給食施設	二八、一六〇	一、七七〇	一	一六三、四六〇
笠小給食施設	六二〇、〇八〇	一五〇、六〇〇	九〇、〇〇〇	三七九、四八〇
上小給食施設	一〇一、四九一〇	三三六、八〇〇	四、〇〇〇	六三八、一一〇
笠中給食施設	九一、四一一〇	二二九、二〇〇	一五〇、〇〇〇	五三四、九一〇
応急給食設備	一〇四、一一〇	一	一	一四一、一一〇
小計	二、九三三、四三七〇	八三三、三〇〇	二、一八〇、〇〇〇	一、八二二、〇七〇
総計	三、〇〇〇、二二八三	一、八五三、二五〇〇	七〇〇、〇〇〇	四、一二九、七八三

2 児童生徒の給食による栄養確保

小中学校の児童生徒が水害による食糧難のため健康を保持するに足る栄養を確保するため文部省ならびに県当局の特別な計らいにより、

昭和三十四年度 二、一六、〇〇〇円

二、四七四名分

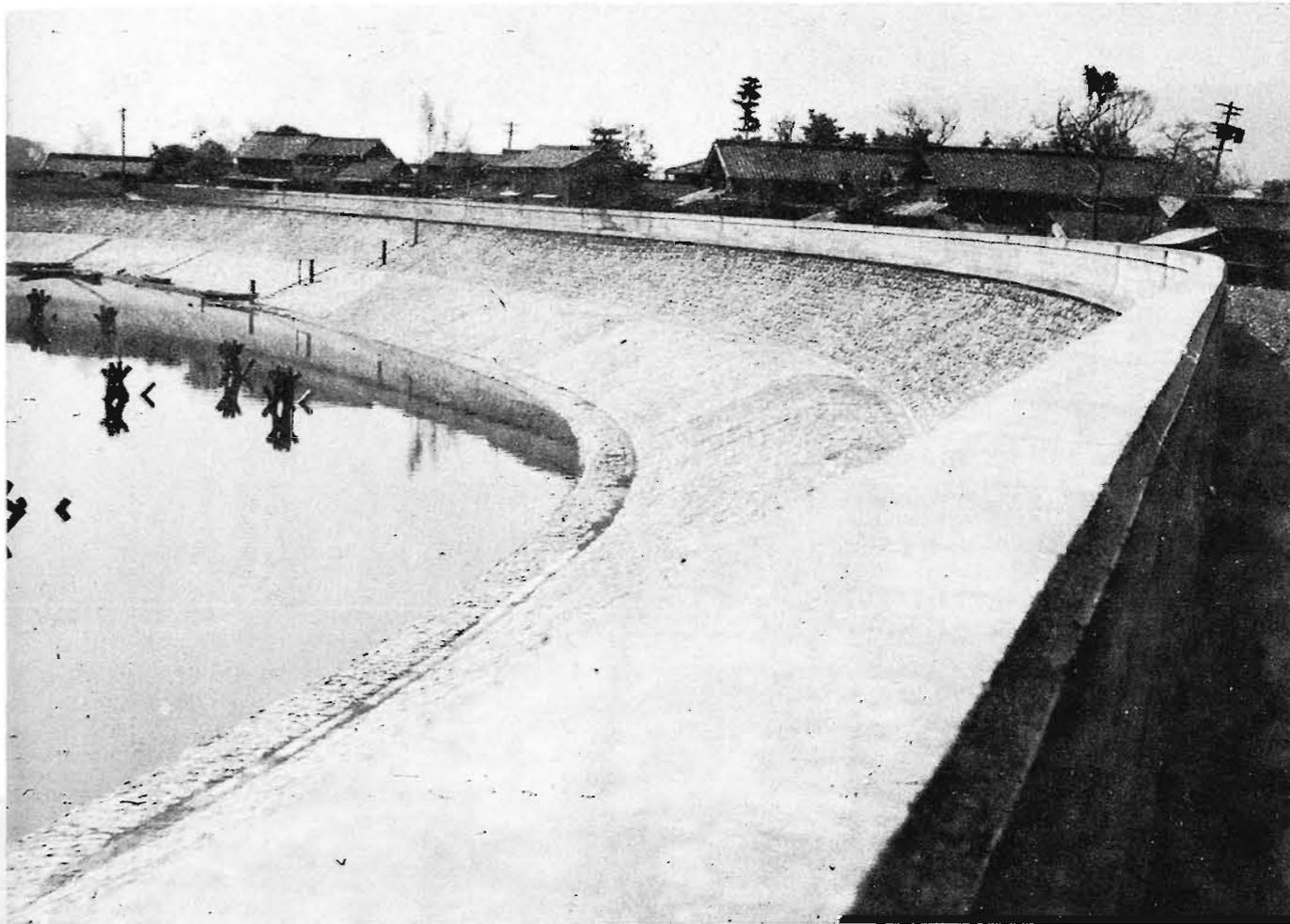
昭和三十五年度 六六八、五〇〇円

一、三一四名分

の国庫補助金と更に同額の地元負担金とによって学校給食用のパンならびにミルクを被災児童生徒に配布した。

また昭和三十五年度分の補助は災害翌年度の産米期迄の応急給食を保障するものとして交付された。

尚、応急給食の実施にともない被災地を中心として完全給食に踏切る気運が昂まり、給食施設ならびに備品新設に



完全復旧の決壊口

根古地決壊口は八月十三日以来建設省直轄による突貫工事をもって復旧に全力をあげ仮堤も殆んど完成した九月二十七日運命の伊勢湾台風により、四十余日間多くの人々が心血を注いだ復旧工事も水泡に期したのである。

以来昭和三十五年三月三十一日まで約六ヶ月間に亘りあらゆる機械力を集中して完成した堤防は誠に立派なものであり、これにより多芸輪中内は一応安心できるようになった。

工事費総額 二〇七、三五〇千円

工期 昭和三十四年八月 十三日から
昭和三十五年三月三十一日まで

稼働延人員 三八、四二二人

主要資材 鋼材三二トン ・ セメント 四六五トン
木材一、六三八石 ・ 石材一六、八〇〇立方米
油脂三三三、〇〇〇立

使用延機械数
 グンブトラック 一一、三六五台
 ブルドーザー 四二〇台
 ドラグライン 二〇六台
 トラクターシヨベル 八九六台
 機関車 二〇二台
 浚せつ船 一五四隻
 工業船 四〇二隻
 モーターグレーダー 八台





幹線道水路工事（船附）



耕地整理された笠郷地区

のびゆく多芸輪中

鶏共同育成所（上多度）



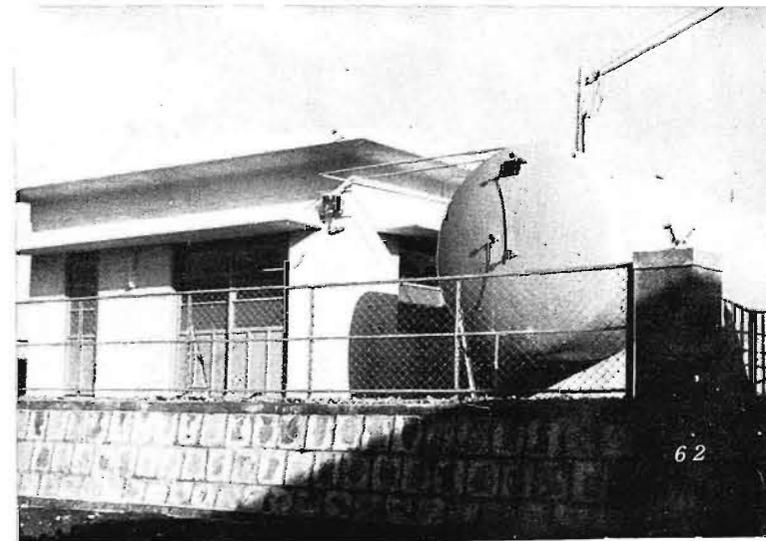
勢揃いした動力耕うん機（笠郷地区）





完成なつた農村アパート（上多度）

簡易水道大巻水源地



養 老 町 の 大 水 害

昭 和 3 7 年 4 月 2 5 日 印 刷

昭 和 3 7 年 5 月 1 日 発 行

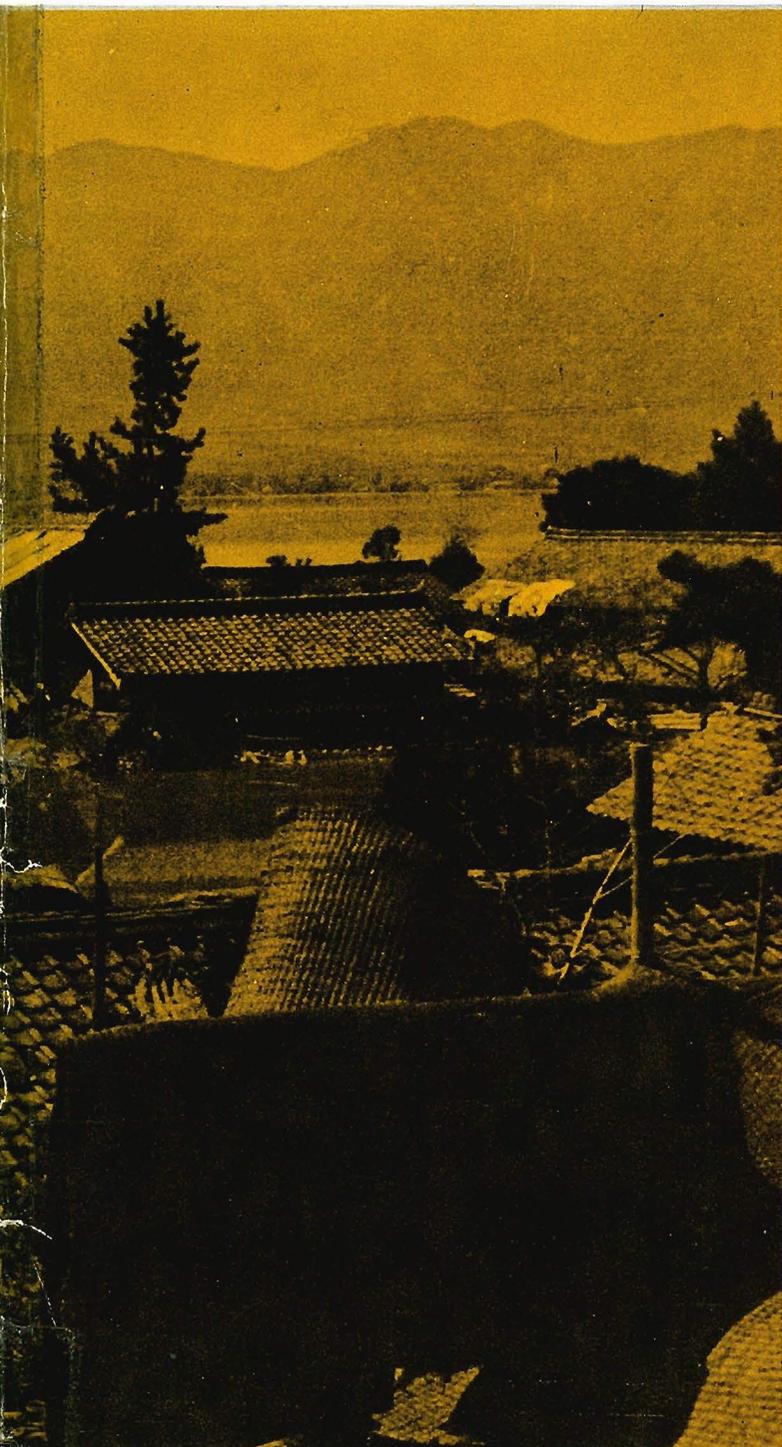
発 行 所

養 老 町

印 刷 所

水 谷 印 刷

大垣郭町・電 3 2 5 6 番



養老町